

ソーシャルワーク演習Ⅰ			科目コード	CN4252
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
3	SR（講義）	3年以上	三浦 剛ほか	



科目の概要

■科目の内容

社会福祉士として求められる専門的資質、専門知識、専門技術の習得を図ることを目的とする。社会福祉士の専門知識、専門技術として求められる相談援助の一連の過程について、具体的事例（社会的排除、児童問題、高齢者問題、家庭内問題、低所得者、ホームレス等）を通してその内容を熟知する。また、地域づくりに関しての基本的知識・技術の習得を図ることに焦点をあて、社会資源の活用や開発、利用者理解・社会生活上の課題理解を深めていくことを目的とする。

- 1) ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。
- 2) 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。
- 3) 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。
- 4) 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。
- 5) ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。

■到達目標

社会福祉援助技術（相談援助）の具体的実践の習得に焦点をあて、利用者理解・社会生活上の課題理解を深められ、ロールプレイなどで実践できる。

■教科書（ソーシャルワーク演習Ⅱと共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座〔専門科目〕7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）上記教科書は必ず持参してください。

■履修登録条件

この科目は「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録するのみが履修登録できます。

※実習を受講予定の方は「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を同時に履修登録してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「他者への関心と理解」「社会への関心と理解」「自他尊重的コミュニケーション力」「他者配慮表現力」「自己コントロール力」「アセスメント力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 40%+スクーリング評価 60%

■参考図書

- 1) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 12 ソーシャルワークの理論と方法 (共通科目)』中央法規出版、2021 年
- 2) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 11 ソーシャルワークの基盤と専門職 (共通・社会専門)』中央法規出版、2021 年

スクーリング

■スクーリング受講申込み上の注意

- 1) この科目は、スクーリングの受講が必須となります。
- 2) 1 クラス 20 人以内の少人数で開講します。
- 3) 受講料は 10,000 円となります。
- 4) 受講許可証・納入依頼書は、各受講判定日（申込締切日）以降に発送します。
- 5) スクーリング開講日・申込締切日は、『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照ください。
- 6) 申込方法は、『With』でご案内します。
- 7) クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。
- 8) 申込締切後の受講日・受講地の変更は受け付けしません。必ずしも第一希望での受講ができない場合があります。ご了承ください。
- 9) 公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席も認められません。

■スクーリング受講条件

受講判定日（=スクーリング申込締切日）までに

- 1) 「ソーシャルワークの基盤と専門職」の 2 単位めレポート提出
- 2) 「ソーシャルワーク演習」の 2 単位めレポート提出
- 3) 「ソーシャルワーク演習Ⅰ」の 1 単位めレポート提出
- 4) 「ソーシャルワーク演習」スクーリング試験の合格
- 5) (入学後 1 年以上経過した方は) 認定単位を除き 20 単位以上の修得

※各提出期日は『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照。

※各受講条件は『学習の手引き』3 章「資格取得のための履修方法」2 節「社会福祉士国家試験受験資格」「5 演習・実習科目 受講の流れ」「6 演習・実習指導・実習の受講条件」から確認してください（受講条件は、見直しにより変更となる場合があります）。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワークの実際を理解する① (虐待、ひきこもり)	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
2	ソーシャルワークの実際を理解する② (貧困、認知症)	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
3	ソーシャルワークの実際を理解する③	これまでの事例をふまえ、ソーシャルワークの価値、倫理的な判断をテーマとしたピアスーパービジョン(グループスーパービジョン)を行う。
4	ソーシャルワークの実際を理解する④ (終末期ケア、災害時支援)	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
5	ソーシャルワークの実際を理解する⑤ (虐待、権利擁護、アドボカシー)	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
6	ソーシャルワークの実際を理解する⑥ (地域の基盤整備と開発)	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
7	ソーシャルワークの実際を理解する⑦	1～6回で学習した事例を振り返り、ソーシャルワークにおける総合的包括的支援についてディスカッションし、発表する。
8	ソーシャルワークの実際を理解する⑧	これまでの事例をふまえ、ソーシャルワークの価値、倫理的な判断をテーマとしたピアスーパービジョン(グループスーパービジョン)を行う。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書や配布資料の事例などを用いて演習を進めます。

なお、演習のスクーリングでは「参加」の姿勢が大切です。

■スクーリング 評価基準

スクーリングの最後に試験をおこないます。「技術」がどの程度身についたかを直接テストすることはできませんが、このスクーリングを通して、どの程度ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術が、具体的に理解できたかを問います。

スクーリング中に学んだ内容から出題します。スクーリング中はこれまで学修した内容を具体的に理解するよう努めてください。

■スクーリング事前学習(学習時間の目安:5～10時間)

「ソーシャルワークの基盤と専門職」、「ソーシャルワークの理論と方法」など、ソーシャルワークについてのこれまでの復習を必ずしてください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	ソーシャルワークの価値・規範 (1)	ソーシャルワークの価値、倫理について	ソーシャルワークの新定義 社会正義の実現、多様性の尊重などの 5 つの価値などをふりかえる
2	ソーシャルワークの価値・規範 (2)	ソーシャルワーカー(社会福祉士等)としての倫理、行動規範について	職能団体の倫理綱領、行動規範などを参考に にする
3	ソーシャルワークの価値・規範 (3)	倫理的ジレンマの解決など、価値規範にかかわるソーシャルワークの実際について	当該箇所の事例などを用いて学習する
4	ソーシャルワークの知識と技術 (1)	ソーシャルワークの知識と技術について	教科書等で確認し、体系的理解と概念化を 目指す
5	ソーシャルワークの知識と技術 (2)	ソーシャルワークの過程について	教科書等で確認し、具体的理解を目指す
6	ソーシャルワークの知識と技術 (3)	実践について	ソーシャルワーク体系を意識し、実践事例 を探し、あてはめる
7	ソーシャルワークを利用する人、状況の理解 (1)	社会的排除による重層的な問題について	8050 問題、ゴミ屋敷問題、引きこもりなど 関係性からの排除によって起こる今日的な 社会課題について、その発生のメカニズム などを調べる
8	ソーシャルワークを利用する人、状況の理解 (2)	現代的な課題解決の方法について	総合的、包括的な支援とは何か、調べる
9	ソーシャルワークを利用する人、状況の理解 (3)	そのためのソーシャルワーク実践について	実際の実践事例などを探してみる
10	地域課題の把握と解決の方法 (1)	地域の特性や課題の理解について	現代的な地域課題について、文献などから 学ぶ
11	地域課題の把握と解決の方法 (2)	地域特性や課題の把握の方法について	地域アセスメントの方法などについて、具 体的に調べる
12	地域課題の把握と解決の方法 (3)	地域課題解決の方法について	実際の実践事例などを探し、検討する
13	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの連続性 (1)	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの連続性について	それぞれのレベルの意味を知り、課題がど のように発生するか調べる
14	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの連続性 (2)	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの展開過程について	実際の実践事例を調べ、検討する。
15	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの連続性 (3)	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの実践について	このモデルやアプローチを調べる

■レポート課題

1 単位め	<p>社会問題、社会福祉的課題とされている事例を選び（ご自身がかかわったこと、新聞や文献などから得たこと、これまで受けた講義、演習などから）、ソーシャルワークの価値、展開過程をあてはめて説明し、あなたの見解を述べてください。</p> <p>*事例とは特定の個人、家族、地域などのことではなく、そこで展開されたソーシャルワークのことをいう。</p> <p style="text-align: right;">(担当：関川伸哉)</p>
2 単位め	<p>地域でのネットワーク形成など社会資源開発、地域づくりを目的としたソーシャルワークの展開過程(プロセス)をまとめ、アウトリーチとニーズ把握の視点、多職種・多機関連携の要点についても触れてください。</p> <p style="text-align: right;">(担当：清水冬樹)</p>
3 単位め	<p>複合的、重層的な課題を抱える人への包括的支援について、その特徴と支援に携わるソーシャルワーカーに求められる専門性についてまとめてください。</p> <p style="text-align: right;">(担当：二渡努)</p>

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

1 単位め アドバイス

事例とは特定の個人、家族、地域などのことではなく、そこで展開されたソーシャルワークのことをいいます。ソーシャルワークの展開過程をしっかりと意識して、自分のことばで、文章構成を明確に述べましょう。使用した事例などの出所を明示してください。

2 単位め アドバイス

社会資源開発、アウトリーチ、多職種・多機関連携などの用語の定義を確認してください。その上で適切な事例を選び、その過程を「要点」にもふれながらまとめましょう。過程ごとにまとめるなど、文章構成を明確に、具体的理解ができていることが伝わるようにまとめましょう。

3 単位め アドバイス

人と人、人と制度などの「関係性」が切られた状態が、8050 問題、引きこもり、ゴミ屋敷、虐待、ワーキングプアなどの問題を引き起こす、社会的排除の状態です。近年のソーシャルワークの目的は、その排除の解決、いいかえれば「社会的包摂」の実現を目指すことです。

ソーシャルワークでは「重層的、包括的」にこれらの問題に対応しようとしませんが、その具体的方法、過程、それを行うための組織運営などについて、具体的イメージができるように事例なども参考にまとめましょう。

引用、参考共に文献は本文中に明示し、巻末リストと対応させましょう。

■レポートの提出方法

- 1) 1 単位につき、1 冊のレポート提出台紙を使用してください。
- 2) 1 単位のレポート文字数は 2,000 字程度ですが、最長 4,000 字程度まで記入していただいても結構です。
※パソコン印字の場合は、左右 40 字×30 行×2~4 枚まで可。
- 3) 教員名の欄には記入しないでください。
- 4) 各レポートは、所定の提出締切日までに提出してください。
※『試験・スクーリング情報ブック』 または申込時の『With』参照。

実習選考試験

■実習選考試験

- 1) 実習受講希望者を対象に、スクーリング1日目の講義終了後に実習選考試験を実施します。

スクーリング1日目・講義終了後	実習選考試験
スクーリング2日目・最終コマ	スクーリング試験

- 2) 実習選考試験またはスクーリング試験が不合格となった場合、当年度の「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の申込は無効となります。
- 3) 実習免除者は実習選考試験の対象外となり、スクーリング試験のみ受講します。